

理科

理科における指導の重点(身に付けさせたい力) ※学習指導要領に照らし合わせて	
ア 知識及び技能	イ 思考力、判断力、表現力等
自然の事物・現象について、問題を見だし、予想・仮説を立て、解決することを通して、基礎的・基本的な知識・技能を身に付けられるようにする。	各学年の視点に立って、問題解決のための力を身に付けられるようにする。(3年:問題を見出す力、4年:根拠のある予想・仮説を発想する力、5年:解決の方法を発想する力、6年:より妥当な考えを作り出す力)。

	児童・生徒の学力の状況(課題)	授業における具体的な手だて	手だての実施時期	成果検証(2月)
第3学年	<p>○観察して調べたことや分かったことなどの結果を、分かりやすく記録する力が弱い。ア</p> <p>○差異点や共通点を基に、問題を見いだすことができる児童が少ない。イ</p>	<p>○観察の基本的な工夫を児童の実態に応じて指導する。ア</p> <p>○体験から日常生活と自然の事物・現象を結び付けて、考えられるようにする。イ</p>	<p>○毎回の授業</p> <p>○随時</p>	<p>・児童の実態に応じて、実験方法や結果・考察を書くワークシートを使うことで、分かりやすく記録することができた。ア</p> <p>・単元の導入で体験活動を取り入れたり、予想する時に、実験を想起させたりすることで、問題を出し合うことができた。イ</p>
第4学年	<p>○問題解決の流れがようやくわかってきた。学習した言葉や技能は理解できている。ア</p> <p>○予想や仮説を立てる際、イメージはもてるものの、根拠をもって考えられる児童が少ない。イ</p>	<p>○引き続き問題解決学習を中心に学習を進める。</p> <p>○生活経験が十分でない児童や、日常の自然事象を思い起こせない児童の支援として、グループや学級で日常の経験を伝え合う時間をとる。予想や仮説を立てる際は、その根拠を日常の経験などから追記するよう追記する。イ</p>	<p>○毎回の授業</p> <p>○随時</p>	<p>・問題解決の流れをしっかりとつかむことができた。特に予想とその根拠に重点を置くことで、学習した用語を活用しながら実験方法を考えた。ア</p> <p>・予想を記述した後、理由をノートに書ける児童が増えた。班で予想を伝え合う活動も根拠を記す上で有効である。イ</p>

<p>第5学年</p>	<p>○身に付けた知識・技能を実生活で活用しようとする児童が少ない。ア</p> <p>○実験結果から考察する力が弱い。イ</p>	<p>○実生活に結び付けた資料を取り入れる。また、自主学習を通して、授業で学んだことを深められるようにするア</p> <p>○実験結果を受けて自分なりに考えをもてたり、新たな疑問や気付きにつながりしている児童の考察を紹介する。イ</p>	<p>○毎回の授業</p> <p>○毎回の授業</p>	<p>・自主学習などで自らの学びに生かすことや、理科の他の単元や他教科でも関係する内容があることに気付くことがあった。ア</p> <p>・少数の児童が、教科書の記述などを参考にしながら考察を紹介することで、皆の考えが深まった。イ</p>
<p>第6学年</p>	<p>○自然の事物、現象を身近なものとならえ、多面的に考えようとする力が乏しい児童がいる。ア</p> <p>○問題解決をするための、結果→考察→結論の過程がつかない児童がいる。イ</p>	<p>○導入で身近な事象を取り入れたり、様々な角度からの実験をしたりして、興味をもたせるようにする。ア</p> <p>○結果から分かることを整理して、予想と結果に適した考えがもてるようになる。イ</p>	<p>○毎回の授業</p> <p>○毎回の授業</p>	<p>・身近なものとして、生活の中の事象と関連付けながら学習をすることで、多面的に考えることにつながった。ア</p> <p>・単元ごとに繰り返し行うことで、問題解決のためにどんな考えをもてばよいか見通しをもてるようになってきた。イ</p>

<p>■「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けた一人一台端末等 ICT の効果的な活用について</p>	<p>■学習の見通しをもたせることや学習を振り返ることの工夫等、「学びに向かう力」の育成に向けた取組について</p>
<p>3年 実験や観察するときの大切な視点を撮影し、結果を記録するときに共有する。(個別)</p>	<p>3年 生活体験から予想を立て、実験・観察、記録、考察の学習の流れを身に付けられるようにする。</p>
<p>4年 実験結果を写真や動画で個人やグループごとに撮影し、その後の結果を考察する際に共有する。(協働)</p>	<p>4年 問題解決の流れを繰り返すことで、児童が学習の流れの見通しをもてるようにする。予想に十分な時間をとり、主体的な活動を促す。</p>
<p>5年 実験や観察対象を撮影し、結果を考察する際に共有する。(協働)</p>	<p>5年 学習を振り返り、新たな疑問や解決方法を発想できるようにする。</p>
<p>6年 調べたいことをいつでも調べられるように手元にタブレット端末を置き、手段の一つとする。(個別)</p>	<p>6年 学習したことを生かして、生活に取り入れたり、さらに発展させて調べたりする活動ができるようにする。</p>